

令和2年度 学校運営等に関する評価書

学校名	和歌山市立川永小学校
作成日	令和3年3月12日

1 教育目標

豊かな心と学ぶ意欲をもち、主体的にたくましく生きる子供を育てる

2 学校自己評価についてのご意見

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の確かな定着 子供主体の授業づくり 家庭学習の定着 読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳・人権教育の推進 いじめの未然防止・早期発見 高学年をリーダーとしたチーム学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上の推進 基本的生活習慣の確立 安全教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域との連携充実 幼保小の接続。中学校区における学校間連携の推進 地域の人材及び資源の活用
重点目標に対する	<p>読書は想像力を豊かにし、読解力やボキャブラリーを高められ、読書活動の推進は、読書習慣を身につけることができ、テレビ、スマホ、ゲームなどがあふれた現代では大いに取り組んでほしい。家庭学習や読書の習慣は、小学生の間に身につけると、一生の財産になる。学力の向上には、生活面も含めた基礎基本が大切で、しっかり定着させることが重要。目標として最適。子供主体の授業づくりは自ら考える力を養い、将来必ず生きてくる。家庭学習は粘り強くさらに啓蒙して欲しい。作文の推進も目標にするのはどうか。考え方、論理の展開、表現力等を高めることができる。</p>	<p>道徳教育・人権教育等を通じた豊かな心の育成こそ、幼少期にとって最も大切なことであり、評価できる。道徳観や人権教育についての取組が家庭にも良い影響になる。学校という小さな社会の中で、いじめの解決方法を考えたり、リーダーを中心として協力し合う等様々なことに取り組み、生きる力を養ってほしい。教職員・子ども・保護者みんなで考えていけるといいと思う。いじめている感覚がなく、いじめが始まってしまうことがある。学校生活の中でお互いに理解しあう機会や協働する機会を増やすことでいじめ防止につながると思う。人は他者に教えたり、手伝ったりすることで学んでいく。高学年の児童たちは下級生のサポートをすることでリーダーとしての時間が備わっていくと考える。友達と仲良くできている児童が大変多く素晴らしい。</p>	<p>「健やかな体の育成」は、勉学、人間形成、社会生活等あらゆる活動の基礎であり、子供の時期に体力を向上させることは、生涯を健康で安全に豊かに暮らすことにつながる。様々な機会を利用して体力向上の推進をお願いしたい。早寝早起朝ごはんが学力の向上につながる。基本的な生活習慣の確立は大切であり、取り組みは評価できる。これからも徹底した教育をお願いしたい。コロナ禍で外に行く機会が減り、子供たちの体力減少に影響がないか心配している。学校での体力向上の取り組みに期待する。車社会の現代において安全教育は大切。保護者・地域と連携した取り組みが必要だと思う。</p>	<p>一人の人間の成長は学校だけで育まれるものではなく、家庭や地域と学校が連携することにより、豊かな様々な視点で子供の成長を見守ることができる。地域との連携は「開かれた学校づくり」につながり、教師、児童、保護者や地域の人たちの活性化につながると考える。地域の人材、資源の活用を通じ、地域と学校とのかかわりが深まり良い事だと思う。コロナ禍の影響がなくなってからだが、地域の方をお招きし、学ぶ機会が増えることは子供たちの知識や感性が磨かれることなので、大切だと思う。幼保小の接続をすることで子供一人一人の理解が深まると思う。可能な限り進めてほしい。</p>
取組状況に対する	<p>今年度はコロナ禍で2か月間休校となったが、夏休みを1週間に短縮するなどしてほぼ例年同様な学習ができたようだ。学力の基礎基本定着のため、毎日の家庭学習は重要。引き続き読もう活動を行ってほしい。授業でも繰り返し基礎基本の学習を行っており、主体的な学習意欲の向上のため、漢字検定等を行っている。読書通帳は高学年では意欲が薄れる傾向がある。読書へのさらなる啓もうが必要。学校評価(児童アンケート)で「毎日の勉強が分かる」の「とてもそう思う」(31.7%)より、「まあそう思う」(52.0%)が多い。「確かな」ものにするには、「とてもそう思う」を増やして欲しい。</p>	<p>道徳・人権教育の充実、児童の成長につながり良い取組だ。リーダーを経験することでいじめ防止や人権教育につながる。いじめアンケートだけでは、実態がつかみにくい。より一層日頃の様子を観察したり、面談したりする必要がある。コロナ禍における学校休業中に感じたことを綴った児童たちの作文を読むと、家族のきずなや当たり前の日常のありがたさ等を悟ったようだ。この素直で豊かな感性は平素の「豊かな心の育成」の成果だと思う。児童アンケートで「学校が楽しい」「友達と仲良くしている」の項目で「とてもそう思う」と答えた児童が多いのでうれしい事である。学校が楽しいと感じている児童がほとんどで大変良い。挨拶が元気になる児童が増えていると感じる。うれしい事だ。</p>	<p>コロナで制約が多い一年だが、体力向上の授業に取り組んでいると思う。感染予防においては、保護者や地域と連携し、手洗いの徹底等健康管理面において大変訓練された一年になっていると感じる。「命の大切さや社会の決まりについて学んでいる」が92.6%と高率なのは、取り組みが良かったと思う。食に対する意欲が高いことは非常に良い事だと思う。マラソン大会等があれば、あきらめずにゴールすることや練習すること等、体力向上以外にも学ぶことがあるのではと思う。生活習慣「早寝早起朝ごはん」等、保護者への働きかけがもっとあっていいと思う。体育の授業やプール水泳、運動会等の行事の取組に制限があったことは残念だが、子供たちははつらつとびのびと成長してくれて大変良かった。</p>	<p>今年度はコロナ禍のため、地域との交流が例年ほどできなかったが、制約のある中、可能な限り取組まれていると思う。地域住民の協力を得て、「地域探検」等を行い、郷土の歴史等を学んだ。地域の方々も子供たちを前に楽しそうであり、子供たちも真剣にお話を聞いていた。ホームページに子供たちの様子やコンクール等で表彰されたことなどを知らせてくれるのはとても嬉しい。先生に対するあこがれを持つ児童数はどうなのか。先生と児童の関係も知りたい。コロナ禍で学校と地域につながりがとても少なく、地域としては寂しい一年だった。子供たちと触れ合うことができず残念だったが、かろうじて下校時の見守りで声を交わすことができた。</p>
取組の適切さの検証結果	<p>学力の基礎は学校でも家庭でも繰り返し学ぶ機会が多いほうが良い。今後も継続的に取り組んでほしい。読書タイムを通じて子供みんなが本好きになったり、漢字の習得につながっていると思う。和歌山放送で川永小児童の作文を聞いたが、小学生でこれだけの見方ができるのかと驚かされた。</p>	<p>「学校が楽しい」「友達と仲良くしている」「勉強が分かる」が高率なのは学校の望ましい姿で、評価に値する。運動会等の行事を通して高学年の児童たちのリーダーとしての行動を発揮できた。参観も懇談もほとんどなく、保護者の19.6%がいじめをなくす学校・学級づくりに「よくわからない」と答えている。いろんな意味で取組が伝わっていないのではないかと。</p>	<p>今年度はコロナ禍の影響で制約のある中、できる限りの取り組みはされていたと思う。「早寝早起朝ごはん」を推奨し、生活リズムを整えることは基本的な生活習慣の確立に役立つと思う。学校設備整備等、安全面から評価できるが、災害時に備え、児童にヘルメットがあればいいと思う。</p>	<p>学校だけでなく、学級だけでなく、保健だより等を通して学校の様子を定期的に発信してくれるので児童が学校の様子がよくわかる。授業参観等で児童の発表を聞いていると、発言力があり、育っていると感じた。今年度はコロナ禍で地域とのかかわりが少なく残念だったが、出前授業等をさらに取り入れて学ぶ機会を増やしてほしい。</p>
改善方法に向けての意見	<p>次年度もコロナの影響はあると思う。今後も工夫改善してコロナ禍でもできる学習に取り組む、楽しく学ぶ機会を増やしてほしい。発表力や書く力を養うため、読書の楽しさを教えてほしい。図書の数や種類を増やしたり、新しい話題の図書があると子供たちはうれしいと思う。作文の推進を指標に取り上げてはどうか。</p>	<p>道徳観やいじめに対する意識等は、経験したり学ぶことで分かることが多い。今後も積極的に継続して取り組んでほしい。「豊かな心の育成」とともに、「楽しい学級の育成」にも努めていただきたい。「挨拶する」「言葉遣いに気を付ける」「低学年や年下を思いやる」等、引き続き取り組んでほしい。コロナ禍で世の中が閉鎖的になりやすく、先行きの不安から心が痛みやすいときなどで、見えにくいところにも目を向けていただき、必要があれば児童たちの心のケアを心がけていただきたい。</p>	<p>基本的な生活習慣は家庭が基本だが、学校で学ぶことで子供自身が自覚して行動できるように引き続き取り組んでもらいたい。携帯ゲームやスマホの影響で基礎体力が低下傾向にある。体育や遊びを通して体力向上につながるよう今後も取り組んでほしい。非常に難しい時期だが、知恵を絞って児童の体力向上のため取り組んでもらいたい。「早寝早起朝ごはん」を推奨する取り組みをもっと進めてほしい。安全教育や防災教育について保護者の意識向上も大切。保護者も学べる機会をこれからも増やしてほしい。</p>	<p>学校と地域が連携することで、家庭と地域が連携することにつながる。世代を超えたかかわりが子供たちにも地域にも大切なことなので、引き続き継続してほしい。コロナ禍でもできる家庭、地域との交流の術を探っていくながら交流を深めてほしい。来年度も感染対策をしつつ、地域や保護者とのつながりを持つ場があればいいと思う。コロナ終息後は一日も早く例年のように交流を行ってほしい。学校の美化を地域の人々も巻き込んで年に数回実施してほしい。お礼のメッセージをいただいでうれしかったが、印象に残ったことについてもう少し書いて欲しい。</p>

3. その他のご意見

今年度は前年度に比べて手探りの毎日だったと思うが、学校の教職員の努力のおかげで乗り越えることができたと思う。一方、外部からの入力は極力控えるようになったため、行事にあまり参加できず、協力もできずあっという間に一年が経過してしまっただけで、来年度は何かの形で協力できたらと思う。感染予防をこれからも徹底しつづけてほしい。社会福祉協議会の取組で高学年児童に「コロナ禍の学校休業で考えた事・気づいたこと」の作文を書いてもらったが、家族への感謝・友達の大切さ・命の尊厳等、どの子も真剣に自分の考えを述べて感動させられた。地域の方々にも読んでもらってほしい。校長をはじめ教職員の指導に感謝したい。学校が楽しいと肯定的な児童が92%いるが、残りの8%の児童の思いにも耳と心を傾け、皆が楽しい学校になるよう願っている。前年度の評価書における次年度の課題がどのように改善されたか、もう少し詳しく知りたい。学校だよりの中がコロナ禍に関するものが多いと感じた。もう少し工夫ができるといいと思う。夏休みを利用して希望者の児童の補習を実施できないだろうか。